

■ 対人援助学会 第 16 回年次大会 京都大会のお知らせ ■

テーマ：「やりがい、生きがいのある対人援助を次代につなぐ」

ASHJ 対人援助学会
Japanese Association of Science for Human Services

戦後、対人援助の領域では法制度が整い、専門職資格の創設、国家資格化もされ、長年発達してきました。それが現在、その現場では、人材不足、スタッフの高齢化などが課題となっています。一方で、虐待などの事件をきっかけに、社会からは高いレベルでのヒューマンサービスを求める声はますます大きくなっています。しかし、予算増、人員増の目立った動きはなく、業務過多やバーンアウト等の問題なども継続して話題になっています。そこで、対人援助学会京都大会では、今働く私たちが「これからはたらしきたい！」と思える環境を整え、そして次世代に魅力ある領域として訴えるにはどうすればよいのか？について、京都の長い歴史も視野に入れて考えます。継続ができて、やりがいを感じ、その実践がねづくためには、どんな価値や要素や知識が必要でしょうか？変化のための小さな一歩とは何か？について知恵を出し合いたいと思います。住民による支援の創出、利用者の立場を尊重した支援が定着してきた京都で、どんな価値を加え、取り組みがいかにこの土地に根ざしてきたのか？について考え、対話を深めていくことは、私たちの今後の実践にもつながる意義深いことと思われまます。学会がより社会に貢献する契機となるよう、創造的で、未来志向な大会にしたいと願っています。

日 程：2024 年 11 月 2 日（土）～3 日（日）

会 場：京都光華女子大学（京都市右京区西京極葛野町 38）阪急京都線西京極駅徒歩 7 分

【プログラム 2 日間】（時間・内容は予定であり、変更することがあります）

● 11 月 2 日（土） ●

- 12:00～12:30 大会受付
- 12:00～18:00 ポスターセッション・ポスター掲示開始

団士郎「木陰の物語」掛け軸漫画展



12:45～14:30 特別記念講演 「対人援助者を生きることとメンタライジング」

1970 年に若手医師による開放医療を巡る病院改革。全国に先駆けて開放医療を進めて行った原動力とは何か、今も継続する実践で培われた対人援助のアイデンティティとは？「『人が人として生きる』というあたりまえのことを実践するために、幾度となく流された、汗と涙。そして得られたのは、すべての苦勞を吹き飛ばすほどの喜びと笑顔」（いわくら病院 HP より）といういわくら病院の支援実践の歩みから学びます。



講師：崔炯仁（チェ・ヒョンイン）

いわくら病院院長、日本メンタライゼーション研究会会長

著書「メンタライゼーションでガイドする外傷的育ちの克服 - “心を見わたす心”と“自他境界の感覚”をはぐくむアプローチ -」（星和書店 2016）」他

14:40～16:20 **理事会企画Ⅰ「多様な学びの創造 一動機づけを生み出す仕掛けを探る」**

発表者：河村昌樹（京都府るり溪少年自然の家）、山本昌平（大阪市総合教育センター）、
千葉晃央（京都光華女子大学）、大谷多加志（京都光華女子大学）

子どもたちが自主性をもって参加し、楽しみながら、学び、成長していくプログラムが各地で行われています。子どもを対象にした「忍者体験キャンプ」は30年以上継続しています。そこにある仕掛けは何なのか？どういったメカニズムがあるのでしょうか？そして、中学校でのプロジェクト学習へのe-スポーツの導入など、多様な学びに向けた取り組みを進め、不登校傾向の子どもに対する職業体験機会の確保や複数担任制の実施など、教職員も含めた持続可能な実践が行われています。これらは、本来あるプログラムの楽しみをさらに広げる活動といえます。現場にあるたくさん仕掛けから私たちは学びたいと思います。

16:30～18:00 **【公募企画ワークショップ1】** ※学会員から企画を公募して開催します。お楽しみに！

18:15～ **情報交流会** 参加者が交流し、各地、各所の情報を交換します！

●11月3日（日）●

9:00～15:00 **団士郎「木陰の物語」掛け軸漫画展**

9:00～10:30 **ポスターセッション 質疑応答**

10:40～12:10 **理事会企画Ⅱ 「支援者はいかに精神的健康を回復しているか」**

発表者 吉村拓美（京都府福知山児童相談所）、園 博伸（フリーランス、元滋賀県児童相談所）

対談者 坂口伊都（家族関係支援 相談援助 いと都いと）

対人援助職は、誰でもモチベーションを保つことが難しくなる時がある。対人援助現場では、支援関係の中で得られる「共感満足」など、支援者もエネルギーが得られる「代理レジリエンス」があり、また支援関係の中のジレンマである「共感性疲弊」もつきものです。「僕らの家族支援研究会（BKS）」の「僕らの」には、＜援助者として主体性を取り戻す共同体＞にできたらという希望が込められ、関西圏の児童相談所や近接領域の現場職員の有志が協力し合い研究会活動を安全な対話を重視しながら想いを共有し、活動しています。その実践を通して、援助者の意欲を高め、援助者支援に繋げていく可能性について考えます。

12:10～13:10 昼休憩

13:10～14:40 **【公募企画ワークショップ2】** ※学会員から企画を公募して開催します。

14:50～15:40 全体会（総会）



■参加申込方法■

- 対人援助学会 HP「参加申込フォーム」より、10月24日（木）までにお申込みください。
- 参加費：一般3000円 学会員2000円 学生・院生（社会人院生を除く）500円
- 参加費は2024年10月24日（木）までに、以下振込先へ納付願います。
- 振込先：ゆうちょ銀行 ○九九（ゼロキュウキュウ）店 当座：0311452 名義：対人援助学会

※詳細は<https://www.humanservices.jp/>